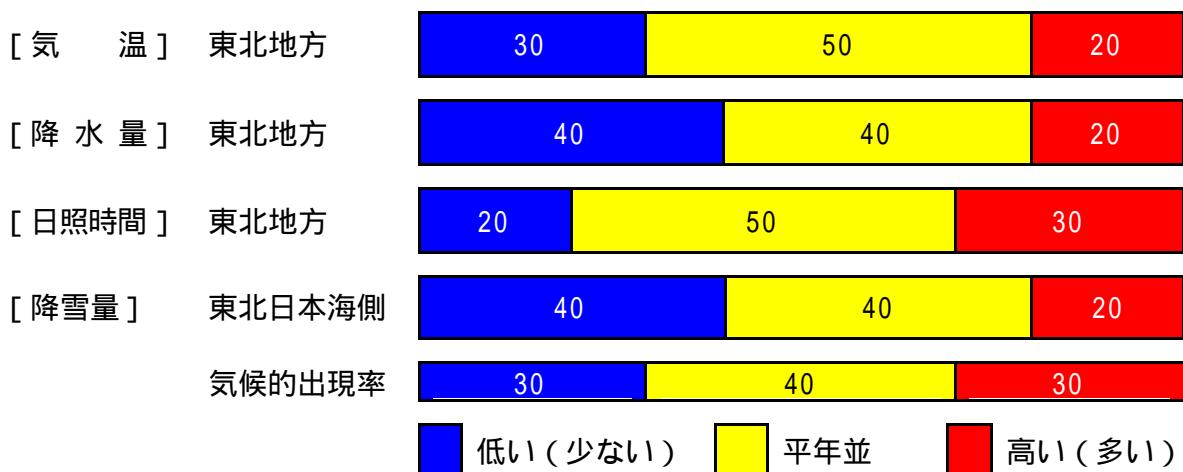


東北地方 1か月予報の解説（予報期間：11月25日～12月24日）

平成12年11月24日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



[気温]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「低い」で、その確率は30%です。「高い」の可能性は20%と小さい。

[降水量]: 東北地方は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

[降雪量]: 東北日本海側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう1か月

天気はおおむね周期的に変化し、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となって寒気が入る見込みです。冬型の気圧配置が強まる時期はありますが、平年と同様に東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約7日、東北太平洋側で約19日です。

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… (11月25日～12月1日) 気圧の谷が27日と29日頃に通り、天気のくずれる所があるでしょう。気圧の谷の通過後は冬型の気圧配置に変わり、東北日本海側ではしぐれますが、東北太平洋側ではおおむね晴れる見込みです。
平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約2日、東北太平洋側で約4日です。

2週目…………… (12月2日～12月8日) 冬型の気圧配置が強まる時期があるでしょう。平年と同様に東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。
平均気温は低い見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約2日、東北太平洋側で約4日です。

3~4週目.....

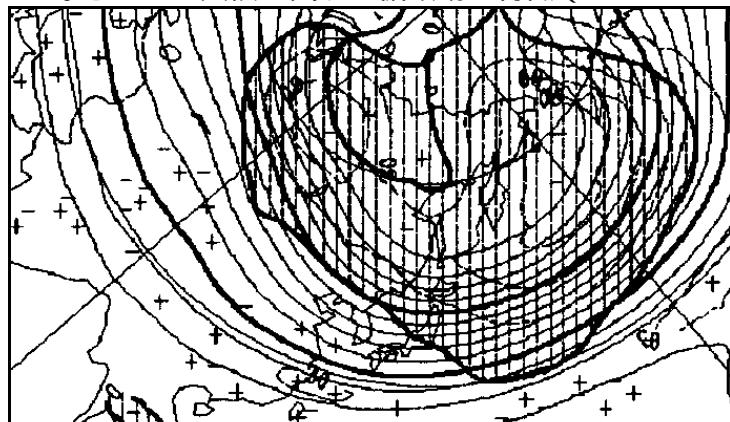
(12月9日~12月22日)

冬型の気圧配置は長続きしないでしょう。平年と同様に東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約3日、東北太平洋側で約9日です。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



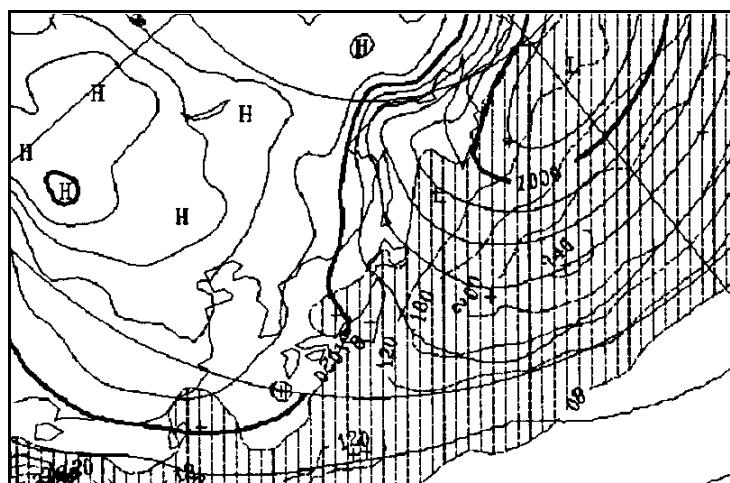
月平均の 500hPa 高度・偏差

(等高度線 : 60m 毎、偏差 : 30m 毎、陰影部 : 負偏差)

・500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、関東以北はアリューシャンに中心を持つ負偏差に覆われる。ただし、日本の南にある太平洋高気圧の勢力は平年より強く、正偏差となっている。このため、日本付近の偏西風は東西流が卓越しており、寒気の南下があっても長続きしないと考える。

週別（図略）では、2週目に日本付近が負偏差となって寒気が南下しやすいが、3~4週目は正偏差に変わる。



月平均の地上気圧と降水量

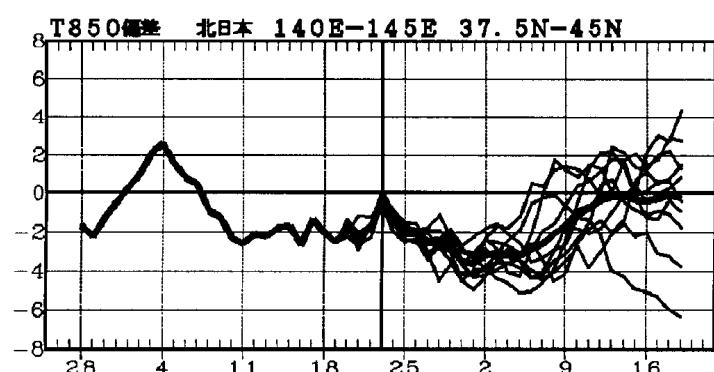
(等圧線 : 4hPa 毎、降水量 : 40mm 毎、陰影部 : 80mm 以上)

・地上気圧と降水量

月平均で見ると、大陸から西日本にかけ高気圧が張り出し、ベーリング海では低気圧が発達して、東北地方は冬型の気圧配置となっている。

まとまった降水域は日本の東海上だが、日本海にも冬型による降水域が予想される。

週別（図略）では、2週目に冬型の気圧配置が強まるが、3~4週目は冬型の気圧配置が弱まる。



北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想

(縦軸 : 気温平年差 () 横軸 : 日付)

発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）の平均値

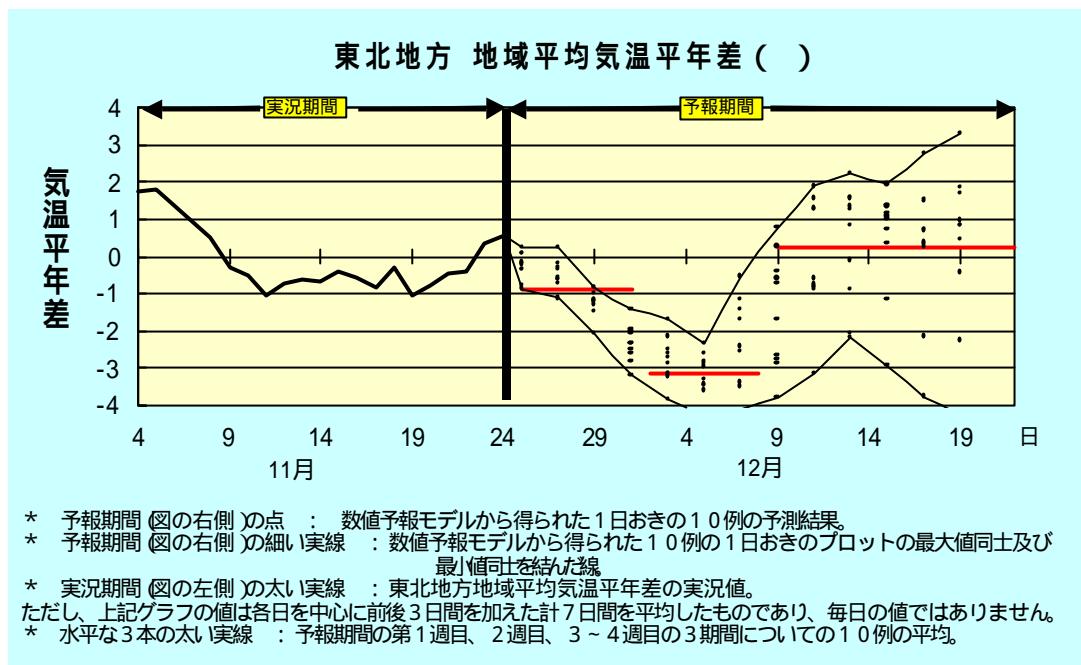
・北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、2週目まで低い状態が続くが、その後上昇して平年並となる。ただし、2週目以降はばらつきが大きい。

なお、最近は 850hPa の気温よりも地上気温が 1~2 度高めになる傾向が続いている。（次ページ東北地方地域平均気温平年差図参照）

3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、1週目「平年並」、2週目「低い」、3~4週目「平年並」を予想している。これまで低く予想しすぎる傾向があり、全体的に予想は割り引いて考えるが、週別の気温は変更しない。また、アンサンブルメンバー間のばらつきは大きく、信頼度は小さい。

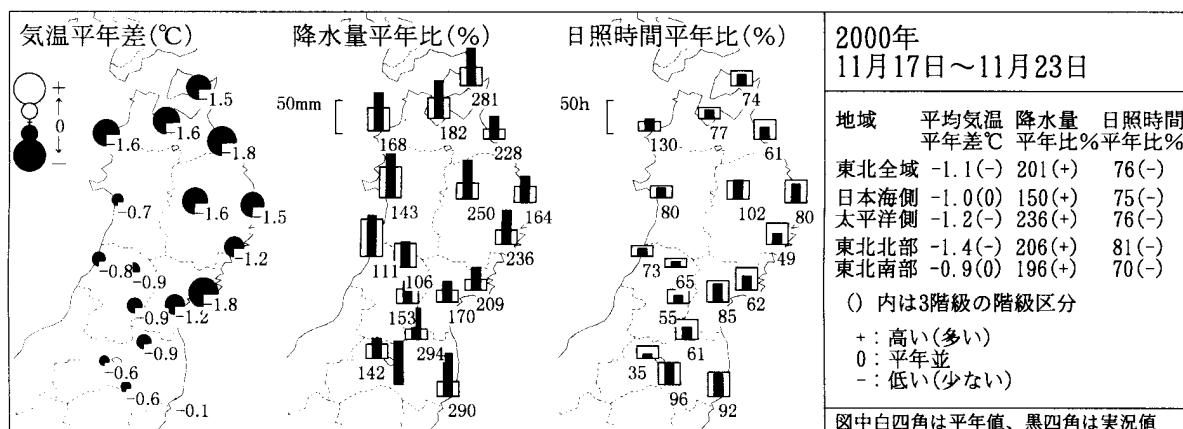


4. 最近1週間(11月17日~11月23日)の天候の経過

この期間、17日には日本の南岸と日本海を、20日には日本海を低気圧が発達しながら通過し、各地でまとまった雨となった。低気圧の通過後は冬型の気圧配置が強まり、東北日本海側では雨または雪となる日が多く、東北太平洋側でも曇りの日が多くかった。

冬型の気圧配置となった18日は秋田・宮古・大船渡・酒田・山形・仙台・若松で初雪を観測した。また、19日は深浦・秋田・石巻で初氷、20日は深浦で初霜、23日は酒田・仙台・福島で初氷、福島で初霜をそれぞれ観測した。

平均気温は、東北北部で平年差-1.4と低く、東北南部で平年差-0.9と平年並だった。降水量は、東北地方で平年比201%と多かった。日照時間は、東北地方で平年比76%と少なかった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)